

子どもの声を聴き、生きる力を育む保育

～一人一人の心に寄り添い、子どもの心が動く、豊かな体験を通して～

那賀町 わじきこども園

今注目の
“保育”紹介



那賀町鷺敷地区には、奇岩と那賀川が織りなす雄大な風景の鷺敷ラインが景勝地として知られ、わじき工業団地では、多くの雇用を生み出しています。また、太龍寺ロープウェイの乗り場があり、多くのお遍路さんが訪れています。

当園は、令和3年4月に「幼保連携型認定こども園わじきこども園」から「保育所型認定こども園わじきこども園」に移行し、現在、0歳児から5歳児までの計75名が、毎日、にぎやかに楽しく生活しています。広々とした園庭や園舎の中で、各クラスそれぞれの年齢に応じた環境を整え、子ども達も職員も一緒にワクワク・ドキドキできるような保育を行いながら、「先生、あのね」「見て見て」「できたよ」…子ども達の声、心の声にしっかりと耳を傾けて、子ども一人一人の可能性をひきだす関わりに重点を置き取り組んでいます。

また、未だ続くコロナ禍の中で、子ども達と職員の安全を第一に考えていながら、職員間で日々の保育や行事の見直しを行うことで、新たな発見や気づき、課題なども見えてきました。感染対策を徹底しながら、クラスごとの保育参観や地域の鷺敷林間キャンプ村や近隣企業への親子徒歩遠足、地域の方とのさつまいも掘りやイチゴ狩り、那賀川での鮎の放流、保護者の人数制限をしておの運動会や発表会などを実施しています。園生活の中で、たくさんの人や環境と関わり、子ども達が豊かな体験を通して、健やかに成長できるよう、そして、保護者の方と共に子ども達の成長を喜び合い、共有できる場を今後も大切にしていきたいと考えています。

園長 椋本 愛



暑い夏が過ぎて

徳島県保育事業連合会長 **大和 忠広**

暑かった夏が過ぎて、朝夕の涼しい季節へと変わっています。今年の暑い夏の中で皆様の保育園・こども園はどのように過ごされたでしょうか。冷房の効いた保育室で室内遊びが多かった施設もあったでしょうし、水遊びで暑さを凌いだ施設もあったでしょう。他に色々な対処方法で過ごされたという施設もありでしょう。何のためかどうしてと考えると、子どもたちの健康と安全を守るためとなるのでしょうか。コロナ禍も相まって大変な思いをされながらの対応だったと思われるのです。このひと夏の経過こそが私たちが研修会では得られない実践の成果なのでしょう。ほんの少しの達成感と、大いなる不安を抱いて、また秋の陣は始まっていきます。お体を大切に、職員のやる気と努力を信じての最善の陣形をお取りください。祈ってます。

新聞紙面では、通園バス内の園児の置き去り死を報じています。なぜこのような痛ましい事件が起こってしまったのか、考えてみました。北九州で認定こども園の通園バスに5歳の園児を下ろし忘れて死亡した事件からさほども経たないうちに、静岡県で3歳の園児を下ろし忘れる事件が起こり、同園児は熱中症でなくなっていました。

朝ママから手渡された水筒の水を全部飲み干し、朝ママに着させてもらった服を全部脱いで死んでいたそうです。苦しかったでしょう。心細かったでしょうね。朝元気に「行ってきます。」と言って出た我が子が、帰りも「ただいま。」と元気よく帰ってくることが普通のことであった生活は、何時までも続く幸せなことだったので。その幸せを、止めてしまったのは何なのでしょう。何がこのバス通園に起こったのでしょうか。私たち保育に関係するものは、子どもの育ちを求める前に、子どもの安全を第一としているはずなのです。安全に自信の持てない保育等は、遊具であれ行事であれ、保育自体の排除、計画の立て直しをしてきました。安全でないもの、安全が完全に確認できないものについては、実施を見送ってきたのが私たちの使命と考えていたのです。通園バスに関しては、安全は交通安全であって、いわゆる保育中の安全確保ではなかったのではないのでしょうか。同じことの繰り返しの通園バス運行の中で、確認、点呼といったごく普通であって初歩的なことを忘れてしまっていたのでしょうか。保育中でも点呼は大事なことです。怠慢にならないよう努めなければなりません。各々の施設にお願いすることは、どこか遠くの施設で園児が死亡するような事故、又はそれに類する事故が起こったときに、必ず職員会で取り上げて、自分たちの施設ではどう防ぐのか等話し合っておくことです。気持ちがいつも新鮮に向き合えて怠慢や慢性化しないことにつながるということです。いつも新鮮な気持ちで向き合えることが大事なのでしょう。子どもたちの安全が保育のスタート地点かもしれません。そして安心を送ることです。

今、コロナ禍の中で、物価高騰に直面しています。この物価高を乗り切るために、各市町村との連携と対話をお願いしたいと思います。電気料、ガス代等の燃料費や、トイレットペーパーや洗剤等の衛生用品、調味料等々の価格が上がっています。保育園やこども園でよく使う品物ばかりです。運営に支障をきたし始めています。国はこの状況に対して補助金を用意してくれたようです。何がどのように昨年と比べてどんなに上がったのか。そのことはどう運営上困るのかといういたって簡単な要望を保育園やこども園の所在する市町村に挙げてみてください。この実情を言葉で説明することが大事なことなのです。各市町村から良い答えを期待しています。

色々なことが暑い夏が過ぎて、進んでいます。保育園やこども園の子どもたちは元気に頑張っています。私たちもその元気に両手を広げてハグをしながら頑張っていきましょう。第8波へ向けた陣形を描きながら。

中堅保育士研修 (7月26日)

講演「子どもの眠り」

講師 熊本大学名誉教授 三池 輝久氏

研修報告 宍喰保育所 谷 由乃

保育の現場では「早寝・早起き・朝ごはん」という言葉をよく使いますが、保育する者にとってとても大切な言葉である事を改めて感じる事が出来ました。

講演の中では、睡眠のリズムは胎児期からもうすでに作られ、二歳までに確立される為、子どもの発達において睡眠はとても重要なものであるという話がありました。子どもにとっての眠りは、脳を作り・育てる大切な時間であり、眠っている間に脳は学習し成長しているそうです。乳幼児期に眠りのリズムが確立されないことが不眠症や発達障害に影響を与えてしまうそうです。

「寝る子は育つ」ということわざがあるように、眠りは子どもの心身をバランス良く育てる時間として重要な役割を担っているという事を学びました。

今まで、子どもにとって睡眠の大切さは認識していましたが、保護者の方から睡眠について相談があっても上手く説明ができませんでした。これからは、保護者の方々にも子どもの睡眠の大切さを伝え、子ども達の心身の発達に関わる事が出来るように勉強し、取り組んでいきたいと思っています。



三池 輝久氏

保育夏季大学 (8月24日)

講演「保育者が対応に戸惑う子どもと保護者への関わり」

講師 作業療法学博士 野藤 弘幸氏

研修報告 桑野保育所 小川 和子

私たちの保育の現場において、子ども一人一人に寄り添った細かな配慮が必要とされています。

講演では、3つのキーワード（①注意力②感受性③身体のリズム）で理解することが重要とのことでした。保育者が対応に戸惑う子どもや保護者は、相手自身が戸惑っているということを知りました。注意力が低い子どもは、同時にいくつもの取り組みがうまくいかないことがあるので、時間をかけて段取りが組めるよう手立てを考えていくことが大切です。目の前にいる子ども達の感性を大切に、得意なことや好きなことを見付け、子どもが楽しいという気持ちを味わう経験を積み重ねていくことが、私たちの役割であると思います。そして、配慮を要する子どもの関わりを中心

におくことで、全ての子どもを包み込む温かな支援へと繋がっていくのだということを改めて感じました。

今後も職員間の連携を大切にしながら、保護者と共に、子ども達自身が人との触れ合いを通して健やかに成長していけるよう取り組んでいきたいと思っています。



野藤 弘幸氏



保育夏季大学 (8月25日)

第Ⅰ講義 (午前)

講演「心のつながりを取り戻す」～セルフコンパッションの在り方～

講師 ■■■■■■ 劇団 Theatre Grace 代表 筒井 昭仁 氏

第Ⅱ講義 (午後)

講演「WITHコロナ時代に考える子どもを守る防災」

講師 ■■■■■■ 危機管理教育研究所代表 国崎 信江 氏

研修報告 ■■■■■■ 藍住ひまわり保育園 安藝 公美子

午前の講義はパソコンで蓮の花の画面から始まりました。「自分に思いやりを持って下さい。」と筒井氏の始まりの言葉。1つは、「自分に対して優しくして下さい。」2つは、「自分の優しさを育み子ども達の対応をして下さい。」とのことでした。「自分で自分の心を癒やしていますか。心を整える時間を作っていますか。」の問いかけに、私は、出来ていないことに気付かされました。コロナ禍でいろいろな制限のある生活が続いています。余裕をもって保育に臨んでいるか反省をしました。深呼吸をしながら、心を穏やかに、セルフコ

ンパッション（自分への思いやり）の体験を大切に人間関係を育みながら保育をしていきたいと思えます。私たちも子ども達も自尊心に繋がることでしょう。

午後の講義では雨の日に避難訓練を実施しておくことと急な災害にも備えられ、災害時における細かい動きを確認しておき、予測を立てて避難できるようにすることが大切とのことでした。地震の映像を通して再度、安全を考え備えるようにしたいと思えました。また、機敏に迅速に行動できるように心掛けておきたいです。



筒井 昭仁 氏



国崎 信江 氏

保育士リーダー研修 (8月30日)

第Ⅰ講義 (午前)

講演「保育の質と職場環境アップ/アンガーマネジメント講座」

講師 ■■■■■■ 日本アンガーマネジメント協会 佐藤 泰子 氏

第Ⅱ講義 (午後)

講演「心を込めて伝えましょう

あなたも相手も快適なアサーションでリーダーシップと人材育成を」

講師 ■■■■■■ フリーアナウンサー・キャリアコンサルタント 藪田 ひとみ 氏

研修報告 ■■■■■■ わかば認定こども園 大平落 直人

午前はアンガーマネジメントについて学びました。これは、怒りを抑えるためではなく、怒りを後悔しないための手法として、アメリカで開発されたそうです。怒りを後悔しないというのは、その状況において怒るべきか否かを理性的に判断することです。そのために、①「衝動性を抑える」②「許せる事象か

判断する」③「許せない場合はコントロールできる事象か分類する」ことが大切だということを知りました。

日々の保育でも、自分の至らなさに苛立ち落ち込んでしまうことがあります。その様な時こそ怒りを客観視し、気持ちを軽くすることで、前向きに取り組める

よう、アンガーマネジメントを活用していきたいと思
いました。

午後は、相手と対等な関係づくりを目指す「アサー
ション」というコミュニケーションについて学びまし
た。自分の気持ちを抑えすぎず、主張しすぎず、事実
や提案を交えながら伝えることが大切であるというこ
とです。

これまで私は、自分の気持ちよりも周りが納得でき
ることを優先してきました。しかし、そのせいで、不
安や不満を抱えたままだったことに気付きました。こ
れからはアサーションスキルを身に付け、自分がどう

思っているかをしっかり伝えながら、よりよい人間関
係が築ける様に努めていきたいと思います。

今回の研修は、どちらも感情に関するテーマで、私
たち保育者が常に向き合い続けている課題でした。自
分自身の感情との付き合い方や表現の仕方を変えるこ
とで心を軽くし、前向きに過ごせることを学びまし
た。これからは、課題を整理しながら自分に向き合
い、相手を尊重しつつ自己表現が出来るよう、スキル
アップを図っていきたいと思います。



佐藤 泰子氏



藪田 ひとみ氏

令和4年度徳島県保育事業連合会表彰受賞者

おめでとうございます

徳島市 (5名)

No.	氏名	公私	保育施設名	職名
1	三国 陽子	公立	徳島市立城西保育所	主 査
2	松下さやか	公立	徳島市立城西保育所	主 査
3	藤井千寿子	私立	みずほ 保育園	栄 養 士
4	林 幸子	私立	前川乳児保育園	管理栄養士
5	生田三記代	私立	川内南アールこども園	主幹保育教諭

鳴門市 (3名)

No.	氏名	公私	保育施設名	職名
1	高橋 史子	公立	鳴門市林崎保育所	係 長
2	宮北 大吾	私立	里浦ちどり保育所	事 務 長
3	三ツ石美江子	私立	里浦ちどり保育所	保 育 士

海部 (2名)

No.	氏名	公私	保育施設名	職名
1	吉坂 直子	公立	牟岐町立認定こども園牟岐保育園	保 育 士
2	森 ゆかり	公立	牟岐町立認定こども園牟岐保育園	保 育 士

三好 (1名)

No.	氏名	公私	保育施設名	職名
1	新居 理恵	公立	三好市西祖谷認定こども園	保 育 士

小松島市・勝浦 (10名)

No.	氏名	公私	保育施設名	職名
1	門田 和子	公立	小松島市立県前保育所	保 育 士
2	村上加津美	公立	小松島市立立江保育所	調 理 主 任
3	木下貴美子	公立	小松島市立立江保育所	調 理 員
4	福富 香奈	公立	小松島市立さかの認定こども園	副 園 長
5	湯浅さおり	公立	小松島市立さかの認定こども園	主任保育教諭
6	大喜多満由子	公立	小松島市立泰地保育所	所 長
7	大和 綾	私立	かもめ 保育園	副 園 長
8	蔭谷 梨沙	私立	かもめ 保育園	保 育 士
9	齋藤奈緒美	私立	かもめ 保育園	保 育 士
10	増尾裕美子	私立	こまつしま健祥会認定こども園	保 育 教 諭

全国保育士会被災地支援スキャンポ募金

スキャンポ募金

各研修会場に設置しています。ご協力お願いいたします。

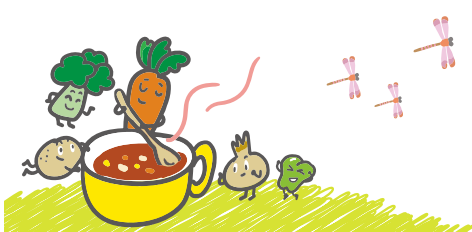


林崎保育所では、現在0歳児から3歳児まで約30名の子ども達が在籍し、毎日元気に登所しています。新型コロナウイルス感染症の影響によって、いろいろな行事が中止・縮小となり、行事食の提供も思いどおりにいかないことが多くありました。そのような中でも食事は毎日の生活に欠かせないものであり、保育所では野菜の栽培といったできる食育活動を通して、子ども達が「食」に対して興味・関心を持てるようにしています。

子ども達が育てた野菜を収穫した時には、その日のうちに給食やおやつに調理して味わい、喜びをみんな

で共有しています。また、豊作の時には、家庭に持ち帰り、保護者からは「自分で育てた野菜を喜んで食べた」といった報告がたくさんありました。

近年は濃い味を好み、野菜・果物が苦手な子が増えていると感じます。栽培活動を通して野菜の生長過程に興味を持ち、行事食では文化を伝えるとともに、楽しく食事をして食に関心を持てるような給食を提供することを意識しています。これからも子ども達の成長を促し、楽しくおいしい給食が提供できるよう取り組んでいきたいと思ひます。



鳴門市の特産物の **なると金時、レンコン** を使っています！

給食にはできるだけ地域の特産物を取り入れ、旬の時期にはレシピなどを家庭にお知らせしています。

★献立紹介 (3歳以上児 1人分)



徳島カレー

- ★牛肉 20g
- ★なると金時 20g
- ★じゃがいも 20g
- ★たまねぎ 30g
- ★にんじん 15g
- ★レンコン 10g
- ★グリーンピース(冷) 5g
- ★マーガリン 3g
- ★カレールー 15g
- ★ケチャップ 3g

- ① なると金時、じゃがいもは一口大、たまねぎはくし切り、にんじん、レンコンはいちょう切りにする。
- ② 牛肉は食べやすい大きさに切る。
- ③ レンコンは下茹でをしてあく抜きをしておく。
- ④ 鍋にマーガリンを熱し、牛肉を炒める。
- ⑤ 肉の色が変わったら、たまねぎ、にんじんを入れてさらに炒める。
- ⑥ なると金時、じゃがいも、レンコンを入れ、水を加えて煮る。
- ⑦ 野菜が柔らかくなったら火を止めてカレールー、ケチャップを溶かし再度火にかける。
- ⑧ グリーンピースを加えて完成。

フレンチサラダ

- ★キャベツ 30g
- ★きゅうり 15g
- ★りんご 15g
- ★粒コーン 7g
- ★ブロッコリー 30g
- ★ドレッシング 4g

- ① キャベツは千切りに、きゅうりは薄い輪切りにしてさっと茹で、ザルにあげる。ブロッコリーも小房に分けて茹でておく。
- ② りんごは細切りにして塩水につけた後ザルにあげる。
- ③ キャベツときゅうりはしっかりと水気を切り、粒コーン、りんご、ドレッシングを加えて和える。
- ④ ブロッコリーを添えて出来上がり。